
ロキサデュスタット(Rox)による TSH 低下に影響を与える因子について

医療法人衆和会 長崎腎病院

○渡部さゆり 増田直子 小嶺真耶 矢野未来 江藤りか 船越 哲

【背景】

Rox は 2019 年に HIF-PH 阻害薬として発売され、腎性貧血治療薬として使用されているが、2022 年 11 月には添付文書に中枢性甲状腺機能低下症を発症する可能性が追記された。今回、当院において、TSH 値の Rox 投与による影響に差があることに着目した。

【目的】

当院において、Rox 投与により TSH が低下する症例と低下しない症例が存在した。TSH の低下に影響を与える因子について検討する。

【方法】

Rox 投与前と投与後に TSH を測定していた患者 51 例。そのうち、TSH 低下群 12 例、非低下群 39 例において、Rox 投与量、体重、Rox 体重当たりの投与量、透析歴、透析時間、レボチロキシンナトリウムの投与の有無、糖尿病の有無、ALB 値、BMI、GNRI の影響について検討した。統計には Fisher の正確検定、Mann-Whitney U 検定を用いた。

【結果】

TSH 低下群と非低下群を比較したところ、ALB 値 ($P=0.004$)、GNRI ($P=0.015$)、体重当たりの投与量 ($P=0.000036$) が TSH の低下に有意に影響を及ぼす結果となった。

【考察】

Rox の分子構造がトリオードサイロニンに類似していることが、中枢性甲状腺機能低下症に起因していると報告されているが、Rox の蛋白結合率が 99% と高いことから ALB 値との関連、また体格や栄養状態が TSH の低下に影響を及ぼす可能性があることが示唆された。